

日本語学習についての中国人学習者の BELIEFS — 香港城市大学のアンケート調査から分かったこと —

板井 美佐

要 旨

筆者は中国人学習者に受け入れやすい教授法や教室活動を提供するための基礎データを収集する目的で、1997年に中国上海復旦大学外国語学部日本語科で中国人学習者のbeliefs調査を実施した。調査ツールはHorwits (1987) と橋本 (1993) の調査で使われたアンケート調査項目を融合させ、それに新たに2領域、15項目を追加した中国語版BALLIである。

今回、前回の調査における問題点を検討し直し、調査目標に合うように、再度調査項目を改良した中国語版BALLIⅡを香港城市大学で実施した。ここでは一部統計処理を前回と比較しながら、香港の中国人学習者に共通して見られる傾向について分析・考察する。

【キーワード】 基礎データ 中国人学習者のbeliefs 中国語版BALLI
BALLIⅡ

The Beliefs of Chinese Learners regarding Japanese Language Learning:

a survey conducted at the City University of Hong Kong

Itai, Misa

What type of teaching method is suitable for Chinese learners of Japanese in Hong Kong? In order to seek a better teaching method, we need to grasp the beliefs of Chinese learners. Using the tool known as BALLI, the author explores what beliefs they have regarding Japanese language learning.

Effective teaching methods and class activities which result in way of learning acceptable to Chinese learners, are examined.

1. はじめに

日本語教育と一口に言っても、教育の場が日本国内か海外かという2つのカテゴリーから眺めるだけでもだいぶ性格が異なる。国内では組織的で効率的な教育の下にさまざまな文化圏からやってきた学習者が一つに集められ、効果ありとして認知された、ある一定の教授法によって教育される。従って学習者の文化・社会的背景の違いとか、各々の文化圏ごとの学習者特性の異なりなどは研究対象であっても、研究結果から直ちに個々の学習者の多様性を反映した授業構成を組むことはいろいろな制約があって許されない。そこで、国内どこへいってもある程度統一的で均質的な、最大公約数的教授法が採用されている。現時点ではほとんどの日本語教育機関で採用されているのは、コミュニケーション・アプローチと直接法の折衷式と言っていると思う。筆者は日本でこの方法によって教えていたが、このアプローチは中国人学者には適さないかもしれないという印象を持って今日に至っている。その当時、中級以上のクラスに在籍していた中国人学習者は、自国（中国）で受けてきた教授法と日本でのそれがあまりに異なるため、消化不良を起こしているように見受けられた。多様性を前提としたクラス編成では、このように問題の所在がはっきりしている場合でも、いろいろな制約から個別に対応することは難しい。

一方、同一言語・文化圏の学習者が一応前提である海外では、学習者のカテゴリー化を行いやすいので、学習者の学習動機、ニーズ、学習特性（学習ストラテジーやビリーフ）等を最大限に考慮に入れた教授法を開発しやすい素地がある。従来、新しい教授法は常に欧米諸国で生まれ、その後しばらくして日本に伝わり、やや遅れて海外日本語教育に影響を与えるという流れだった。問題は欧米諸国で認知された教授法であっても、それが必ずしもアジア圏の学習者に適しているとは言えないということである。これは当然のことで、欧米で開発された教授法はそこでの学習環境や学習者特性を考慮して作られたものであって、もともとアジア地域における教育背景とかアジア人特有の学習特性に照準を当てたものではないからである。

2. 先行研究

近年教授法の発展の中で学習者を重視する考えが強くなり、学習者のさまざまな条件を考慮しようという方向へ向かっている。また一方で、学習者の学習特性についての研究を通して、学習者の学習特性を最大限に生かした学習リソースやクラス活動を提供しようという方向へと進んでいる。学習者の学習特性（学習ストラテジーや学習ビリーフ等）については、分類と体系化に関するさまざまな先行研究が発表されている。学習者のビリーフは学習者が言語学習に対して意識的・無意識的に抱いている態度や意識である。学習者のビリーフを把握することは、学習行動の背後でそれを支える学習者の信念を把握するという意義の他に、学習行動を学習者が客観的に把握することで、自らの学習行動を反省し改善する契機を与える意味がある。学習者が言語学習についてどのようなビリーフを持っていて、それが言語学習にどのような影響を与えるかについては、Horwits (1987) を初めとしてWenden (1987, 1991)、Rubin (1987)、橋本 (1993)、Cotterall (1994)、外山 (1997)

等がさまざまな報告の中で述べている。

Horwits (1987) は成人ESLクラスで実施した調査報告の中で、学習者のビリーフの違いによって、学習者の教室活動への取り組み方やストラテジー使用に差が現れることから、学習者のビリーフを把握することの重要性を指摘している。さらに、学習者の認知スタイルや情意的な諸要因と比較すると、ビリーフは変化させやすいため、学習者のビリーフで阻害要因になっているものを取り除けば、学習を促進できるかもしれないと述べている。上記の調査で用いられたのが、BALLI (Beliefs About Language Learning Inventories) であり、5 領域 (言語学習に対する適性、言語学習の難易度、言語学習の性質、コミュニケーション・ストラテジー、言語学習の動機) 35 項目から構成されていた。

Wenden (1987) は成人ESLクラスでインタビュー調査を行い、規範的信念 (Prescriptive Beliefs : 外国語を成功に導くような信念) に基づいて、学習者を3つのグループに分類した。そこで、各々のグループの学習者が言語学習において用いるストラテジーが異なっていて、学習者のビリーフとその使用するストラテジーの間には一定の関係があったと報告している。さらに、Wenden (1991) はこれまでの研究を発展させ、外国語学習を成功させる鍵は、学習者の変容を促すような取り組みを外国語学習と合わせて行うことであるとし、教師が学習者との説得的コミュニケーションにより、学習者のビリーフをよりよいものに変化させることを目標としたガイドラインを提起している。

Rubin (1987) は学習ビリーフが学習ストラテジーを背後で支えることを理由に、学習者が学習ストラテジーをどのように使用するのかをよく理解するためには、学習に対する学習者のビリーフを明らかにする必要があると述べている。

橋本 (1993) は、BALLIを学習者の大まかな特徴を教師が把握するための道具の一つとして位置づけ、HorwitsのBALLI (1987) に27項目を追加したBALLI アンケートを実施した。その後で、言語学習観を意識化させ、学習の参考になるような視点やストラテジーを獲得してもらうことを目的としてBALLI 討論を実施し、一定の効果をあげたと報告している。

Cotterall (1994) は教師と学習者のビリーフのずれによっては、学習者の自律性が伸びることも損なわれることもあると述べ、教師が学習者の信念を無視したり、無理に変えさせようとする、反ってマイナスであると警告している。同時に、Cotterall は6 領域34 項目から成るアンケート調査表で調査を実施し、言語学習についての6つの基礎要因を分析した。

外山 (1997) は中国人学習者のビリーフの傾向を捉えるため、橋本のBALLIアンケートに「教師の要求」「媒介語」の2領域、15項目を追加した中国語版BALLIを中国上海の復旦大学で実施し、学年によるビリーフの変化、教師と中国人学習者とのビリーフのズレ、成績上位者と成績下位者とのビリーフの差について検討している。

これまでの先行研究に共通していることは、橋本 (1993) が指摘しているように、さまざまな運用方法についての提案と「どのような学習ストラテジーがあるのか」という議論であって、「どのような (異なった文化圏) 学習者がそれらを使用するのか」という点は議論されていない。そこで、

本稿では個々の中国人学習者を「中国人学習者」という一つのカテゴリーにまとめ、どのような学習ビリーフを使用しているかを見ていく。

筆者は、中国人学習者のビリーフの中に共通の傾向が見つけられれば、中国人学習者に適した教授法と取り組みやすい教室活動を特定できるのでないかと考え、4領域（言語学習の性質、コミュニケーション・ストラテジー、教師への要求、媒介語）、47項目の中国語版BALLIⅡアンケートを実施した。中国語版BALLI（1997）から、言語学習に対する適性、言語学習の難易度、言語学習の動機の3項目を削除した理由は、これらが言語学習一般に関する質問で、今回のアンケートの目的とはややずれること、言語学習の動機を調査するなら、学習者動機調査を別途実施したほうが適切なデータを得ることができると考えたからである。分析にあたっては以下の5つの視点に基づいて行う。

- ①学年によって差が出たビリーフがあるかどうか。
- ②賛成よりのビリーフにはどんなものがあるか。
- ③不賛成よりのビリーフにはどんなものがあるか。
- ④1997年に実施した中国版BALLIの結果と今回の結果はどのように違うか。
- ⑤アンケート全体としての傾向はどのようなものであるか。

3. 調査概要

3.1 実施方法

アンケートの対象者は香港城市大学商業及び管理学系、国際貿易専攻の学生118名（各学年2クラスずつ）である。当コースの特徴は、日本語は副専攻であるため、日本語学習時間は香港における他大学と比較すると著しく少なく、日本人留学生在籍していないので、クラス外で日本語に触れる機会はほとんどない¹⁾ということである。

アンケートはコース開始直後の1998年2月に実施した。クラス開始時にアンケート実施の目的と解答用紙の記入方法を指示した後、質問用紙と解答用紙を配布した。解答の仕方は5段階評定方式である。アンケート内容についての質問を受け付けた後、クラス時間中²⁾にアンケートに解答、提出するように指示した。尚、回収率は77.0%であった。

調査内容は①言語学習の性質、②コミュニケーション・ストラテジー、③教師への要求、④媒介語の4領域、47項目である。

3.2 結果及び考察

3.2.1 学年によって差が出たビリーフ

分散分析（One Way ANOVA）により学年によって差が出たビリーフを見てみると、以下のようになった。これら4項目以外は統計上有意差が現れなかったため、学年によってビリーフにあまり変化がなかったことが分かった。

グラフ1. 中国人学習者の日本語学習についてのbelief

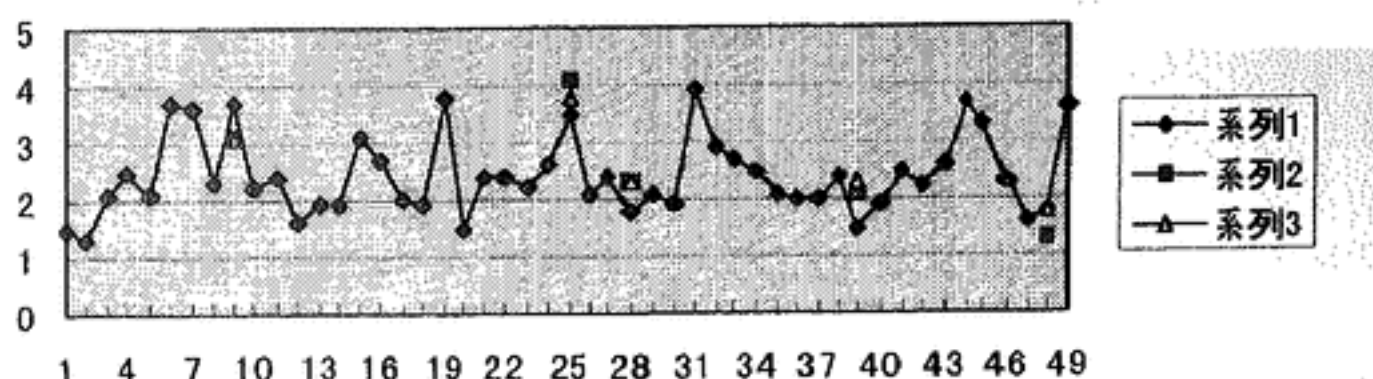


表1. 学年によって差がでたビリーフ (>. 05)

	平均値		
	year1	year2	year3
9. 教師のアドバイスが気に入らなくてもそれに従う。 P値= 0. 0192	3. 7	3. 1	3. 1
25. 言語学習に進歩が見られなかったら、それは教師の責任だ。 P値= 0. 0088	3. 5	4. 1	3. 8
28. クラスで学習する文はすべて翻訳してほしい。 P値= 0. 0081	1. 8	2. 3	2. 3
38. 文化の習慣の違いに関することはクラスで教えてほしい。 P値= 0. 0040	1. 5	2. 1	2. 3

3. 2. 2 賛成よりのビリーフ

平均値が2. 0以下の項目を選んで、結果を要約してみる。まず、語彙や文型の反復練習と暗記学習を指示し、文法積み上げ型学習によって実力が養成され则认为ている。また1学年の段階では翻訳に頼る指向が強いことが分かる。また、教師がクラスでイニシアティブをとるべきだとするビリーフが高いので、ここから学習者の自律的学習傾向を読み取ることはできない。媒介語についてはクラスでなるべく母語を使用しないほうが早く日本語が上達するとしながらも、文法の説明はかなり長期間にわたって母語でしてほしいという要求を持っていることが分かる。

表2. 賛成よりのビリーフ

【言語学習の性質】	平均値
	基本統計量
17. 外国語学習の最も重要な部分は文法の学習である。	2. 0 (1. 70、2. 02)

【コミュニケーション・ストラテジー】

2. 正確な発音で日本語を話すことは重要である。 1. 3
(1. 23、1. 45)
12. 大量の反復練習は重要だ。 1. 6
(1. 48、1. 77)
13. 単語や短い文を暗記することは重要だ。 1. 9
(1. 80、2. 10)
18. 文法上の疑問点ははっきりさせないと落ち着かない。 1. 9
(1. 70、2. 02)
20. 時間がかかってもやさしい文型から難しい文型へと徐々に積み
上げて学習していくほうが、最終的には実力がつくと思う。 1. 5
(1. 40、1. 68)
28. クラスで学習する文はすべて翻訳してほしい。 1. 8、2. 3、2. 3
(1. 53、1. 97)(2. 03、2. 49)(2. 00、2. 62)
39. LLでテープを聞くより教師の生の声を聞いて練習するほうがいい。 1. 9
(2. 66、3. 06)
46. 自分が興味がある話題を通して外国語を学習するのは面白い。 1. 6
(1. 49、2. 57)

【教師への要求】

1. 教師はクラスでイニシアティブを取るべきだ。 1. 5
(1. 41、1. 63)
14. クラスを指導するのは教師の責任だ。 1. 9
(1. 73、2. 03)
38. 文化による習慣の違いはクラスで教えてほしい。 1. 5、2. 1、2. 3
(1. 23、1. 81)(1. 86、2. 32)(1. 90、2. 61)

【媒介語】

30. クラスで理解できない問題が出てきた時、母語で同級生に質問し
ても構わない。 1. 9
(1. 77、2. 07)
36. クラスでなるべく日本語を使って、母語を使わないようにす
るほうが早く日本語が上達する。 2. 0
(1. 82、2. 16)
37. 文法は母語で説明するとしたら……
- a. 初級レベルだけ 2. 0
 - b. 初級レベルから中級レベルまで (1. 84、2. 10)

c. 中級レベルから

a. 口頭による

2. 4

b. 板書、プリントによる

(2. 21、2. 55)

c. a & b

3. 3. 3 不賛成よりのピリーフ

平均値が3. 5以上の項目を選んで結果を要約してみる。学習計画、スケジュール決定、教師のアドバイスに対しては自立的学習態度が読み取れるように思う。クラス活動については非母語話者同士のペアワークや会話に足して意味があるとする結果が出た。また特徴的であるのは媒介語で文法解説する必要度がかなり高かったことである。

表3. 不賛成よりのピリーフ

【言語学習の性質】

平均値

基本統計量

7. 非言語的誤用は重要ではない。

3. 6

(3. 41、3. 73)

47. 非母語話者と日本語を話すのは意味がない。

3. 6

(1. 44、2. 06)(1. 16、1. 53)(1. 43、2. 07)

【コミュニケーション・ストラテジー】

6. 学習者同士のディスカッションで学習計画やスケジュールを決めるの

3. 7

は時間の浪費だ。

(3. 61、3. 89)

9. 教師のアドバイスが気に入らなくてもそれに従う。

3. 7、3. 1、3. 1

(3. 33、4. 09)(2. 81、3. 39)(2. 73、3. 39)

19. 普通の会話の中ではっきりしない部分があっても疑問点を追求しない。

3. 8

(3. 64、3. 98)

25. 学習に進歩が見られなかったら、それは教師の責任だ。

3. 5、4. 1、3. 8

(3. 15、3. 93)(3. 91、4. 31)(3. 60、4. 08)

43. ペアで行うようなクラス活動は苦手だ。

3. 7

(3. 50、3. 82)

【媒介語】

31. 媒介語で文法解説をする必要はない。

3. 9

(3. 73、4. 07)

3.3.4 中国語版 BALLI (1997) との比較

まず、言語学習の性質の領域から見ていく。前回は「語彙の学習（項目29：2.7）」に比べると「文法の学習（項目38：3.3）」と「翻訳の学習（項目57：3.7）」をあまり重要視していないという結果だったが、今回はすべて重視する傾向にあり、特に「文法の学習（項目17：2.0）」を最も重要な部分であると考えていることが分かった。クラス活動については前回（項目42：2.2）も今回（項目21：2.4）も「会話中心のカリキュラムがいい」と述べている。学習者の自立性にかかわる項目を見ると、今回は「教師なしに外国語を学習するのは不可能だ（項目10：2.2）」については比較的賛成よりだったが、前回（項目28：3.1）は不賛成よりだった。

次にコミュニケーション・ストラテジーの領域であるが、学習方法に関するピリーフは前回とほとんど同じ結果が出た。すなわち、「大量の反復練習は重要だ（項目30：1.6／項目12：1.6）」「単語や短い文を暗記することは重要だ（項目31：2.2／項目13：1.9）」「テープによる練習は重要だ（項目55：1.7／項目35：2.1）」「時間がかかってもやさしい文型から難しい文型へと……実力がつくと思う（項目41：1.5／項目20：1.5）」という伝統的知識重視の学習方法を支持している。テキストについてのピリーフは「テキストを使わず口頭だけの練習は自分には向かない（項目59：2.3／項目41：2.2）」と答えながらも、「テキストに基づいた授業がいい（項目60：3.1／項目42：2.6）」とは思っていない。このことから中国人学習者はこれまで著しい「目型」とであると指摘されてきたが、これは傾向であって、必ずしも教授法に対する嗜好までも意味するものではないと言えないだろうか。「正確な発音で日本語を話すことは重要である（項目9：1.7／項目2：1.3）」「文法上の疑問点ははっきりさせないと落ち着かない（項目39：1.8／項目18：1.9）」からは学習者の寛容度を読みとることができないが、一方「初級の段階で日本語の誤用が許されるとしたら、……正確に話すことが難しくなる（項目37：3.6／項目16：2.7）」には否定的な学生が多いことから、正確な言語運用能力にあまりこだわっていないことが分かる。実際の練習については「自分が興味がある話題を通して外国語を学習するのは面白い（項目70：1.7／項目46：1.6）」が、「同級生が発言（練習）しているのを聞くのは退屈だ（項目62：3.8／項目44：3.3）」とは思っていないので、伝統的な教授法の中にコミュニケーションなやり方が導入できる可能性があるのではないかと思う。「教師のアドバイスが気に入らなくてもそれに従う（項目27：3.5／項目9：3.3）」「学習者同士のディスカッションで学習計画やスケジュールを決めるのは時間の浪費だ（項目19：3.7／項目6：3.7）」と考えている学生は前回同様多くなかった。

教師への要求の領域は、前回の結果と今回の結果にかなり違いが見られた領域である。どちらも「クラスを指導するのは教師の責任だ（項目35：1.7／項目14：1.9）」し「文化の習慣の違いに関することはクラスで教えてほしい（項目53：1.2／項目38：2.0）」が、「言語学習に進歩が見られなかったら、それは教師の責任だ」（項目45：4.1／項目25：3.8）」

とは考えていない。しかし、前回は学習者の自律性が高く、「教師はクラスでイニシアティブを取るべきだ（項目6：2.8／項目1：1.5）」「教師は学習者にとって最も効果的な学習方法を本人よりも知っているべきだ（項目12：3.8／項目4：2.5）」「宿題は教師が学習者に出すべきだ（項目13：3.9／項目5：2.1）」「学生に関する評価は教師によってなされるべきだ（項目46：3.2／項目27：2.4）」とは考えていないのに対し、今回はこれら多くの役割を教師に期待している。おそらく前回の学習者は日本語が主専攻で、しかも学内に日本人学習者がかなり多く在籍していたため、教師に頼らなくても主体的に学習過程を自己管理できる学習環境にあったが、本大学の学習者は伝統的に教師主導型の授業に慣れていること、教師以外に学習リソースがないこと等が原因で、教師依存的な結果が出てきたものと思われる。

最後に、媒介語に関する領域であるが、教師への要求の領域同様、「クラスで母語を全く使用できないと、ひどくフラストレーションを感じる（項目50：2.8／項目34：2.5）」「クラスで質問する時、日本語で言えなかったら、母語で聞いてもかまわない（項目47：2.7／項目29：2.1）」「クラスで理解できない問題が出てきた時、母語で同級生に質問しても構わない（項目48：2.4／項目30：1.9）」「クラスで質問以外の時でも母語を使っても構わない（項目49：3.2／項目32：2.9）」等のすべての項目について前回より今回のほうが肯定的である。媒介語による文法解説も「文法は母語で説明するとしたら……初級から中級レベルまで（項目52：1.7／項目37：2.0）」については同様の結果が出たが、前回は「口頭による（1.3）」解説だけでいいとした解答が多かったのに対し、今回は「口頭と板書、プリントによる（2.4）」丁寧な解説を望んでいることが分かった。但し、媒介語は必要であると言いながらも「クラスでなるべく日本語を使って、母語を使わないようにするほうが早く日本語が上達する（項目51：1.9／項目36：2.0）」と考えている。

3.3.5 アンケート全体の分析

アンケート全体を把握するために、全質問項目に因子分析を行ったところ、17の因子が抽出された。因子解釈の観点から3つの因子を採用し、バリマックス回転後の因子負荷量から各因子と関連の高い項目を抽出した。各因子に含まれる項目は、因子負荷量が0.60以上のものである。

表4. 各因子の寄与率

因子	year 1		year 2		year 3	
	固有値	寄与率	固有値	寄与率	固有値	寄与率
1	7.1	14.8	5.8	12.1	8.5	17.7
2	5.6	11.6	5.5	11.4	5.0	10.3
3	5.1	10.6	3.4	7.1	4.2	8.7

表5. 各因子と関連の深い項目

Year 1

因子1：伝統的教授法因子

内容	負荷量
17. 外国語学習の最も重要な部分は文法の学習である。	0.75
11. 外国語学習の最も重要な部分は語彙を学習することだ。	0.72
5. 宿題は教師が学習者に出すべきだ。	0.66
28. クラスで学習する文はすべて翻訳してほしい。	0.66
42. テキストに基づいた授業がいい。	0.65
13. 単語や短い文を暗記することは重要だ。	0.63
10. 教師なしに外国語を学習するのは不可能だ。	0.62
14. クラスを指導するのは教師の責任だ。	0.60

因子2：教師や教授法への情意面での反応

内容	負荷量
27. 学生に関する評価は教師によってなされるべきだ。	0.75
31. 媒介語で文法解説をする必要はない。	0.73
22. 教科書を見ないで学習するとしたら、不安を感じる。	0.70
21. 会話中心のカリキュラムが最もいい。	0.69
9. 教師のアドバイスが気に入らなくてもそれに従う。	0.68

因子3：教師や教授法へのマイナスの情意反応

内容	負荷量
19. 普通の会話の中ではっきり……疑問点を追求しない。	0.80
25. 言語学習に進歩が見られなかったら、それは教師の責任だ。	0.66
15. 他の人と日本語を話すのは恥ずかしい。	0.62
41. テキストを使わず口頭だけの練習は自分には向かない。	0.61

Year 2

因子1：日本語運用場面での情意反応

内容	負荷量
34. クラスで母語を使用できないと、ひどくフラストレーションを感じる。	0.74
33. 文法解説以外のその他の部分はすべて日本語を使ったほうがいい。	-0.68
8. 日本人と日本語の練習をするのは楽しい。	-0.65

1 5. 他の人と日本語を話すのは恥ずかしい。 0. 6 5

因子 2：伝統的教授法因子

内容	負荷量
4 1. テキストを使わず口頭だけの練習は自分には向かない。	0. 6 5
4 2. テキストに基づいた授業がいい。	0. 6 5
3 6. クラスでなるべく日本語を使って、母語を使わないほうが早く日本語が上達する	0. 6 4
3 5. カセットテープによる練習は重要だ。	0. 6 4

因子 3：媒介語

内容	負荷量
3 1. 媒介語で文法解説をする必要はない。	- 0. 7 2
2 3. 文法や語彙の解説は媒介語を用いてほしい。	0. 6 1

year 3

因子 1：学び方

内容	負荷量
1 2. 大量の反復練習は重要だ。	0. 7 4
4 6. 自分が興味がある話題を通して外国語を学習するのは面白い。	0. 7 3
1 8. 文法上の疑問点ははっきりさせないと落ち着かない。	0. 6 8
3 9. LLでテープを聞くより教師の生の声を聞いて練習するほうがいい。	0. 6 8
2 0. 時間がかかってもやさしい文型から難しい文型へと徐々に積み上げて学習していくほうが、最終的には実力がつく	0. 6 6
3. 日本語を話すためには日本文化についても理解する必要がある	0. 6 4
3 6. クラスでなるべく日本語を使って、母語を使わないようにするほうが早く日本語が上達する。	0. 6 3
1 7. 外国語学習の最も重要な部分は文法の学習である。	0. 6 2
4 5. 外国語を学習する時、最もいい方法は母語を話す人から学ぶことだ。	0. 6 0
1 4. クラスを指導するのは教師の責任だ。	0. 6 0

因子 2：言葉への関心

内容	負荷量
2 8. クラスで学習する文はすべて翻訳してほしい。	0. 6 7

- | | |
|--------------------------------|--------|
| 3 2. クラスで質問以外の時でも母語を使っても構わない。 | 0. 6 6 |
| 1 1. 外国語学習の最も重要な部分は語彙を学習することだ。 | 0. 6 3 |
| 5. 宿題は教師が学習者に出すべきだ。 | 0. 6 1 |

因子3：発話

内容	負荷量
1 5. 他の人と日本語を話すのは恥ずかしい。	0. 6 6
2. 正確な発音で日本語を話すことは重要である。	-0. 6 5

まず、学年ごとにピリーフへの注目度に差があることが分かる。1学年の因子1は伝統的教授法因子と名づけてもいいだろう。語彙や文法学習を重要視し、教師なしに外国語を学習することは不可能であるとする教師主導型の授業に注目している。教師や教授法へのマイナスの情意反応は日本語学習の期間が短いため、日本語学習に対してのと惑いや不安を表わすものだといえる。

次に2学年の因子2は伝統的教授法因子と言えそうだが、因子1では日本語運用場面での情意反応が注目されている。受け身の学習姿勢から一歩進んで実際に日本語を運用する場面に視点が移っている。3学年では因子1の項目は多岐に渡っているが、伝統的教授法を含んださまざまな学び方に着目している。因子2では言葉への関心を示し、因子3では発話に注目していると考えられる。

これらの分析から明らかになったことは学習者のピリーフへの注目度が学年ごとに変化しているということであり、しかも学習者の関心が情意面での反応から実際的な日本語運用の方向へ移行していることである。

4. おわりに

冒頭でも述べたように、直説法とコミュニカティブによる折衷法は中国人学習者に適しているようには思えない。彼らの日本における日本語能力の今一つの伸び悩みの原因もそこにあると思われる。ここから二つのことが言えると思う。まずは初級段階からコミュニカティブ・アプローチを導入した場合は学習者の出来上がり（成果）が異なるのではないかということ、2番目に単純にこのアプローチが中国人学習者に適していないということである。現段階ではどちらとも言えない。が、2つの選択肢が考えられる。Oxford（1989）は「安全で使い慣れた毛布を取ってはいけない」と述べているが、この言葉通り、中国人学習者が中・高等教育時代に受けてきた、あるいはもっと遡り、物心つくころから受けてきた教育方法を模倣し、彼らの言語学習観を脅かさないようにしながら、暗記学習に強いとか、「目型」であるとかいう彼らの優れた点を最大限に生かした教授法を採用するか、あるいはHorwits（1987）の指摘するように、学習者のピリーフを変化させることが容易であるなら、「良き学習者」の観点から見て、問題となりそうな学習ピリーフや今ある教授法の問題点を認識させ、彼らの言語学習観の土台を揺り動かさない程度に徐々に無理のないよう優れた

ビリーフ及び教授法を導入していくかである。筆者は、この両者の折衷案をここで提案したい。つまり、中国人学習者の優れた点を生かしながら、よりよい学習環境へと導いていけるようなビリーフや教授法を取り入れていくことである。

今回で中国語版 BALLI の実施は 2 度目であるが、前回とは実施地も学習者の専攻も異なるので、データの結果を中国人学習者という一つのカテゴリーでまとめるのは少し無理があったかもしれない。次回は香港の大学機関すべてにおいて実施し、データを検討してみるつもりである。

注

- (1) 1 学年については夏期日本語スタディツアーに毎年 7、8 名の学生が参加する。2 学年は 8 名程度の学生が学外の日本人と「相互学習」を行い、3 学年は「テープ通信」という活動を担当教師と行っている。2 年生と 3 年生は年に一度日本人の学生との交流会に参加する。
- (2) 1 年生については担当教官に後日回収をお願いした。
- (3) (前回の数値/今回の数値) である。

参考文献

1. Anita Wenden (1984) 'How to be a Successful Language Learner: Insights and Prescriptions from L2 Learners' in Rubin, J. & Wenden, A. (eds.) (1987) *Learner Strategies in Language Learning*, Prentice-Hall International, pp103-118
2. Anita Wenden (1991) *Learner Strategies for Learner Autonomy*, Prentice Hall
3. Horwitz, E. K. (1987) 'Surveying student's Beliefs about language learning' in Rubin, J. & Wenden, A. (eds.) (1987) *Learner Strategies in Language Learning*, Prentice-Hall International
4. Joan Rubin (1987) 'Learner Strategies: Theoretical Assumptions, Research History and Typology' in Rubin, J. & Wenden, A. (eds.) *Learner Strategies in Language Learning*, pp85-102
5. Rebecca L. Oxford (1990) *Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know*, Newbury House
6. Sara Cotterall (1994) *Readiness for Autonomy: Investigating Learner Beliefs System*, 1995 Vol. 23, No. 2 pp195-205
7. 板井美佐 (1997) 「言語学習についての中国人学習者の BELIEFS - 上海復旦大学のアンケート調査より」『筑波大学留学生センター日本語論集』第 12 号 pp63-88
8. 海保博之 (1985) 『心理・教育データの解析法 10 講基礎編』野村出版。
9. 橋本洋二 (1993) 「言語学習についての BELIEFS 把握のための試み - BALLI を用いて」『筑波大学留学生センター日本語論集』第 8 号 pp215-241

謝辞

データ分析についてアドバイスをしてくださった城市大学分析コンサルタントの周嘉龍さんに心から感謝の意を表したい。

〔資料1〕 アンケート

これは、皆さんが日本語学習に対してどのような考えを持っているかを調べるものです。各々の項目を読んで、答えの用紙に1～5までの番号を書いてください。正しい答えも間違った答えもありますから、よく考えてあなたの考えに合う番号を選んでください。またこのデータを研究に使う時、名前は出しません。よろしくお願いします。

1. 教師はクラスでイニシアティブを取るべきだ。
2. 正確な発音で日本語を話すことは重要である。
3. 日本語を話すためには日本文化についても理解する必要がある。
4. 教師は学習者にとって最も効果的な学習方法を本人よりも知っているべきだ。
5. 宿題は教師が学習者に出すべきだ。
6. 学習者同士のディスカッションで学習計画やスケジュールを決めるのは時間の浪費だ。
7. 非言語的誤用は重要ではない。
8. 日本人と日本語の練習をするのは楽しい。
9. 教師のアドバイスが気に入らなくてもそれに従う。
10. 教師なしに外国語を学習するのは不可能だ。
11. 外国語学習の最も重要な部分は語彙を学習することだ。
12. 大量の反復練習は重要だ。
13. 単語や短い文を暗記することは重要だ。
14. クラスを指導するのは教師の責任だ。
15. 他の人と日本語を話すのは恥ずかしい。
16. 初級の段階で日本語の誤用が許されるとしたら、後で日本語を正確に話すことが難しくなる。
17. 外国語学習の最も重要な部分は文法の学習である。
18. 文法上の疑問点ははっきりさせないと落ち着かない。
19. 普通の会話の中ではっきりしない部分があっても疑問点を追求しない。
20. 時間がかかってもやさしい文型から難しい文型へと徐々に積み上げて学習していくほうが、最終的には実力がつくと思う。
21. 会話中心のカリキュラムが最もいい。

22. 教科書を見ないで学習するとしたら、不安を感じる。
23. 文法や語彙の解説は媒介語を用いてほしい。
24. 教科書の項目の順番に学習したい。
25. 言語学習に進歩が見られなかったら、それは教師の責任だ。
26. 教科書のすべての内容を学習したい。
27. 学生に関する評価は教師によってなされるべきだ。
28. クラスで学習する文はすべて翻訳してほしい。
29. クラスで質問する時、日本語で言えなかったら、母語で聞いても構わない。
30. クラスで理解できない問題が出てきた時、母語で同級生に質問しても構わない。
31. 媒介語で文法解説をする必要はない。
32. クラスで質問以外の時でも母語を使っても構わない。
33. 文法解説以外のその他の部分はすべて日本語を使ったほうがいい。
34. クラスで母語を全く使用できないと、ひどくフラストレーションを感じる。
35. カセットテープによる練習は重要だ。
36. クラスでなるべく日本語を使って、母語を使わないようにするほうが早く日本語が上達する。
37. 文法は母語で説明するとしたら……
 - a. 初級レベルだけ
 - b. 初級レベルから中級レベルまで
 - c. 中級レベルから
 - a. 口頭による
 - b. 板書、プリントによる
 - c. a & b
38. 文化による習慣の違いに関することはクラスで教えてほしい。
39. LLでテープを聞くより教師の生の声を聞いて練習するほうがいい。
40. 日本語学習の最も重要な部分は母語からの翻訳の仕方を学ぶことである。
41. テキストを使わず口頭だけの練習は自分には向かない。
42. テキストに基づいた授業がいい。
43. ペアで行うようなクラス活動は苦手だ。
44. 同級生が発言（練習）しているのを聞くのは退屈だ。
45. 外国語を学習する時、最もいい方法は母語を話す人から学ぶことだ。
46. 自分が興味がある話題を通して外国語を学習するのは面白い。
47. 非母語話者と日本語を話すのは意味がない。

【資料2】

這是一張了解大家對學習日語的想法的調查表。請您逐條閱讀，在答卷上填寫1-5的數字。
這5項回答中不存在對於錯的問題，請您仔細考慮以選擇出符合自己想法的回答。在使用這些數據進行研究時，不會公開姓名。多謝各位合作。

1	2	3	4	5
非常贊成	贊成	既不贊成 也不反對	不贊成	極不贊成

1. 教師在課堂教學中應起主導作用。
2. 說日語是發音準確，是很重要的。
3. 爲了說日語有必要了解日語的文化。
4. 教師應該比你更了解對於你自己來講，什麼是最有效的學習方法。
5. 作業應該當由老師來布置給學生
6. 對於學習者來說，通過相互商量來制定上課計劃及學習日程，只是浪費時間
7. 非語言的差錯並不重要
8. 我同所遇到的日本人練習說日語很愉快
9. 老師的建議即使並不合適自己，也照這去做
10. 沒有老師學習外語是不可能的
11. 外語學習最重要的部分是學習詞匯
12. 反復，大量練習是很重要的
13. 背單詞或短語是很重要的
14. 對全班的學習進行指導和引導，是教師的責任
15. 我跟別人說日語時，感到很不好意思
16. 我認爲如果允許初學者出現日語錯誤，那麼他們以後就很難把日語說得正確了。
17. 外語學習最重要的部分是學習語法
18. 語法上的疑點搞不清楚就會感到心裏不踏實
19. 在平常會話中即使有語法上的問題或弄不清楚的地方也不去追求
20. 多花些時間，由淺入深地學習句型，日積月累才能最終培養出真正的熟巧
21. 以會話爲中心的課程最好
22. 如果不懂同時看課本就感覺不安
23. 解釋語法和詞匯的用法，用媒介語應當講授
24. 按照課本項目的順序數，學習
25. 你的外語學習不見長進，責任在於老師
26. 我願意學習課本裏的所有內容

27. 應由老師來對學生做出評價
28. 在課堂上介紹的文章，在口語學習的課程應翻譯
29. 在課堂上提問題，如不會用日語說，用母語說也無妨
30. 在班上遇到不懂的問題，可以用母語問同學
31. 不需要用媒介語來解釋語法
32. 學生在班上除了提問題，其他的也可使用母語
33. 除了語法解釋以外的部分，其他部分應該全部用日語
34. 在班上如一點不能使用母語，會感到憋悶
35. 聽錄音磁帶練習是很重要的
36. 在班里儘量說日語，不說母語，才能早日學好日語
37. 如果語法問題用母語解釋的話——
- a. 只限于初級水平
 - b. 從初級水平到高級水平
 - c. 從高級水平開始
- a. 口頭解釋
- b. 舉板書、掛圖
- c. a & b
38. 對於因文化而異形成的不同習慣，在外語學習的班上應當講授
39. 聽老師的發音比聽磁帶練習還好
40. 日語學習最重要的部分是學習怎樣把母語翻譯成目的語
41. 不使用教材，只做口語練習的方法不適合自己
42. 按照教材講課好
43. 不習慣兩人一組進行的班級活動
44. 聽同班同學發音或做練習覺得沒有多大意思
45. 學習外語，最好的方法是跟講母語的人學習
46. 通過自己感興趣的話題來學外語是很有意思的
47. 不是日本人的人之間說日語，既無益處也頗無意義